

Rotary International
2011～2012

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

中村ロータリークラブ

例会記録 (2011～2012)

会 長/大 杉 幸 雄
幹 事/杉 本 一 博
会報委員長/嶋 村 晃

創 立/昭和38年10月2日
例会日/水曜日 12:30～13:30
例会場/新ロイヤルホテル 四万十
事務所/四万十市中村小姓町46番地 中村商工会館2F
TEL 0880-35-4551 FAX 0880-35-4553
●ホームページ <http://www.nakamura-rc.com/>

週報 No.2234

第2365回 平成23年10月20日 (晴れ)

本日のプログラム：3クラブ合同例会 (宿毛RC/秋沢ホテル)

10月26日のプログラム：ゲストスピーチ 竹村克彦様 (高知東RC)

11月2日のプログラム：ゲストスピーチ NPO法人 四万十なかまの会

3クラブ (四万十RC・宿毛RC・中村RC) 合同例会 一米山奨学生を迎えて一

【会長挨拶】 西田宿毛RC会長

・本日は、四万十RC、中村RC、宿毛RCの 米山奨学生を迎えての合同例会です。皆様 ようこそお越しくださいました。

・先日2011年ノーベル賞の発表がありました。生理医学賞3名、物理学賞3名、化学賞1名。平和賞には「アラブの春、世界に勇気を」ということで中東、アフリカの女性3名が受賞。

ノーベル賞創設者のアルフレッド・ノーベルはダイナマイトの発明で膨大な利益を元にノーベル賞を創立しました。1833年ストックホルムで生まれ、発明したダイナマイトはトンネルや運河の土木事業に使われ事業は国際的に大きく成長しました。また、爆薬は戦争の道具としても急速に広まり、自分が作り出した爆薬が戦争に使われる厳しい現実と直面し心の痛みがノーベル平和賞創立につながったとも言われています。

東日本大震災やノルウェーの連続テロ事件など「なぜ、こんなことが・・・」と思うことが起きてしまう。こうした時我々に力を与え前進させてくれるのが科学であり人道主義ではないでしょうか。今回日本人の受賞者はいなかったのですが次回は是非期待したいものです。



■ビジター紹介

高知第Ⅱ分区ガバナー補佐 岡本 憲尚様
米山奨学生カウンセラー 森下 由朗様 (高知北RC)

■ゲストご紹介 舛谷財団・米山委員長

ロータリー米山奨学生 ウライウォン・ピリヤ様
本日のスピーチは「異文化理解について」

経歴

1974年生まれ、タイ出身、高知工科大学博士課程

今回は家族で出席



本日のプログラム ゲストスピーチ ウライウォン・ピリヤ様 (米山奨学生)



皆さんこんにちは。本日はお招きありがとうございます。高知工科大学の博士課程に在籍中、今日この場でお話が出来ます事をとても光栄に思います。同時にこのようなチャンスを与えて下さって皆様に感謝致します。

本日は異文化理解についてお話をしたいと思えます。誰も皆それぞれ「夢」があると思いますが、私は「雪」を見る事でした。タイに雪はありません。私の故郷はタイの南部です。3つの季節しかありません。その季節とは暑い季節、もっと暑い季節、もっとも暑い季節です。

大学生の時にアメリカで博士を取る資格に応募し、アメリカで勉強する奨学金を受ける事ができました。私はアメリカで色々な場所や人々。そして文化、世界各国の友達と出会いました。アメリカではじめに経験した文化の違いは「挨拶」でした。挨拶はコミュニケーションの中でも一番シンプルなものですが、国ごとに違いが大きいものの一つです。タイでは手を合わせて「サワディー」と言います。日本人は頭を下げて「こんにちは」、ヒスパニックでは「オラー」と言いながらホッペにキスをします。

アメリカの大学でとてもチャーミングな日本の女性に出会い恋に落ちました。タイの男性にとって日本の女性は、男性を敬い子供を愛するというイメージがあります。私は日本の女性と結婚したかったのです。友達にその女性を紹介してもらい、2年間の交際の後、私達はめでたく結婚しました。しかし私は文化の違いの本当の難しさを経験する事になりました。タイ人と日本人の夫婦における離婚率は70~80%。その原因はやはり文化の違いです。幸運な事にその70~80%にまだ入っていませんが、今までに文化の違いによる衝突を数えきれない程、家庭の中で経験しました。

文化とは見たものを、どう理解し表現する事だと私は考えます。形成の状態や違う場所に行く事で、新しい文化に出会う事が出来、今日では色々な文化を同時に経験できると思います。

言行はこれに照らしてから

- 1 真実かどうか
- 2 みんなに公平か
- 3 好意と友情を深めるか
- 4 みんなのためになるかどうか

私の家族のように一つの家庭で二つの文化が存在する事もあります。社会の国際化によって、違う文化の人達が共に働き、勉強したり一緒に生活するからです。時にはお互いに理解出来ない時があります。しばしば文化の違いが起こしているのに気づかない時もあります。しかし今までの経験で私が学んだ事は違う文化について、どうしても理解出来ない事が必ずあるということです。大切な事は理解出来ない事があるという事を理解して、受け止める事だと思います。文化は決して私達を分けてバラバラにする事ではありません。むしろ文化の違いや類似を意識する事で、コミュニケーションを円滑にするが出来ます。文化を跨いだビジネスにおいて4つの注意点があります。一つは広い範囲の色々な文化や人々から違う文化を理解しスキルを得る事です。二つ目はハブニングの心構えをしておく事です。三つ目は技術より文化を分ける事です。四つ目は言葉の重要性を理解する事です。言葉がメッセージ伝達に占める割合は、言葉が7%、声が38%、ボディランゲージが55%。ゆっくり話してボディランゲージする事が大切です。

最後に社会学者のヘブナーの言葉をもって私のスピーチをまとめさせていただきます。ヘブナーよると「文化」は人の行動に影響する。他文化をもっと知る事で私達はよりより先生、学者、セラピーになれる。そして違う文化を理解する事で、私達はよりよい人間になれるのです。

本日はありがとうございました。

●最後に、バナー進呈の後、中村クラブ大杉会長、四万十クラブ猿田会長よりそれぞれ謝辞を頂きました。

【出席報告】

- ・会員総数47名 (免除会員1名)
- ・本日の出席/ 名 %
- ・先週の訂正 M % → %

